

呼出し、次に寄かたくと呼べし、さて雙方土俵にむかへば、出かけの方より名乗をあげて、其次に寄かた誰と名乗をあげ、角力を合すなり、もつとも拳の故實、濫觴の事は、五人拾ひの最初に、行司を預人は是を述る、此おもむき、眞の角力とはすこしの相違あり、

### 同行司意得之事

行事をあづかる人、第一に意得とするは、左右より打たる指をよくおぼえ、何々にてをりかけたるといふことを得と胸におとしつけ、幾度も折はねくとまたるときに、うろたえぬやうにすべし、又左右ともにつかれ見え、たがひにこゑの合ぬことあり、其時中にて水を入れ、左右へ化粧紙をわたすなども、席の模様なり、さてまた特と聲の遅き拳、あるひはこゑをぬく拳あり、かやうのとき行司のはなはだめい、わくする事あり、折にはまたイヤイヤとばかりいひて、拳のこゑが一こゑにイヤイヤを十こゑもいふ拳あり、さほどいやなことなれば、最初よりうたぬがよひとおもふ事も、儘あり、其餘色々むづかしき拳のあるものなれば、行司の役はいづれにも、すいぶん氣ながにまんぼうをせねばならぬことなり、たとへ極寒にても玉をあざむく汗をながし、我家業よりも大切に、して眼た、きもせず、拳ばかりにこゝろをうつし、宵より夜のあけるもいとせず、勝負の分るまで、嚴重に相つとめる事なり、かくのごとく堅固につとめたりとて、誰ありて給銀をくれるものもなければ、我實を散じて、此役を守るが、行司の味なり、奇なり、妙なり、○下略

〔拳會角力圖會〕上、略、圖之圖下、略、拍木之圖 拳錦之圖 手水桶之圖 相引之圖 土俵飾附之

圖 弓之圖 弦

〔近世奇跡考〕五玉菊拳まはし

享保中酒を好む者、拳相撲といふことをしてもつはらはやりけるが、玉菊その事を上手にせしよし、新吉原小田原屋某玉菊が手におほひし拳まはしといふものを今にをさむ、甲がけと云も